

万葉集

vol. 16

はじめての
日本に現存する最古の
和歌集『万葉集』を
わかりやすくご紹介します。

瀬に寄せる 秘密の恋

五條市の東部、吉野川沿いに広がる東阿田・西阿田・南阿田町一帯の地は、かつて『万葉集』に「安太」と詠われた場所です。安太に住む人々は、川に杭を打ちこみ、そこに簀を張って魚を獲る「梁」という漁をしていたようです。『日本書紀』にも神武天皇が東征するなかで出会った土着の民について、次のような記述があります。

水に縁ひて西に行きたまふに及びて、亦梁を作ちて取魚する者有り。天皇問ひたまふ。対へて曰さく、「臣は是れ菰苴担が子なり」とまうす。此則ち阿太の養鵜部が始祖なり。

安太人の 梁うち渡す 瀬を速み
心は思へど 直に逢はぬかも

(訳) 安太の人々が梁を渡す瀬が速いように、人の噂がはげしいので、心にはげしく思うのだが、直接は逢えないことよ。

作者未詳 (巻11 二六九九番歌)

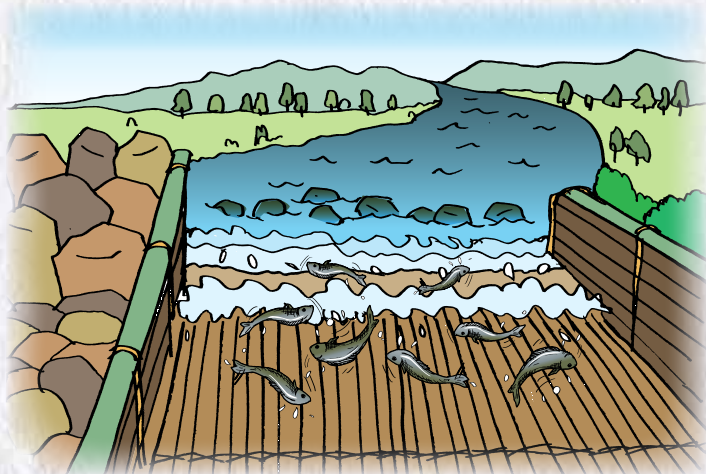
ここでもやはり安太に住む人々が梁を使って魚を獲っていたことがわかります。

右の歌は、その安太の人が梁をうって漁をする吉野川の激流のように、と上三句までが比喻の表現となつています。下二句がこの歌の本意で、周囲の妨げによつて逢うこともままならない秘めた恋心が詠まれています。

『万葉集』にはこのような秘密の恋を詠んだものがいくつもあり、たとえば、「他辞を繁み言痛み逢はざりき心あるごとな思ひわが背子」(巻四の五三八)のように、噂が煩わしいから逢わなかっただけで浮気したと思わないでねといった歌や、「人眼多み逢はなくのみそ情さへ妹を忘れてわが思はなくに」(巻四の七七〇)のように、人目が多いから逢わなかっただけで心まで忘れたわけ

ではないよといった歌がみられます。家族や職場、仲間内にはナイシヨの交際。不安でもどかしい恋心は今も昔も変わりませんね。

(本文 万葉文化館 小倉久美子)



万葉ちゃんの スポット 紹介

吉野川

五條市を東西に流れる吉野川の沿岸には、芝崎、高岩、ナメラなどの奇岩景勝の場所が多くあります。昭和59年に国体のカヌー会場となった所でもあり、休日になるとカヌーや鮎釣りなど、水辺の遊びを楽しむ人たちがにぎわいます。10月には大川橋近くに「梁漁」の仕掛けが設置されます。



芝崎の奇岩



カヌーを楽しむ人たち



アクセス

JR和歌山線五条駅下車 東へ約2.5km

問 県広報聴課 ☎0742-27-8326 FAX 0742-22-6904